

平成27～29年度 長期派遣研修研究テーマ

- 1 山口大学及び山口県立大学大学院派遣研修
- 2 博物館長期体験研修
- 3 幼児教育長期研修
- 4 自然体験活動等長期研修
- 5 やまぐち総合教育支援センター長期研修
- 6 特別支援教育長期研修
- 7 保健体育関係長期研修（学校保健）
- 8 教育相談等長期研修
- 9 日本人若手英語教員米国派遣事業

平成30年
山口県教育委員会

「平成27～29年度長期派遣研修研究テーマ」について

○ 目的

本冊子は、長期派遣研修者の研修成果の還元を図るために最近3年間の研究テーマについて集約したものです。
市町教育委員会にあっては所管する学校の課題解決等に、学校にあっては研修会の講師の選定や研修情報の収集等に御活用ください。
また、巻末に長期派遣研修一覧を添付しておりますので、派遣研修への推薦等の際の参考としてください。

○ 掲載内容

下記の研修等について掲載しています。

(ページ)

1	山口大学及び山口県立大学大学院派遣研修	2
2	博物館長期体験研修	4
3	幼児教育長期研修	6
4	自然体験活動等長期研修	7
5	やまぐち総合教育支援センター長期研修	7
6	特別支援教育長期研修派遣	10
7	保健体育関係教員長期研修(学校保健)	12
8	教育相談等長期研修教員派遣	13
9	日本人若手英語教員米国派遣事業	14
10	長期派遣研修一覧	15

○ 活用の具体例

<市町教委>

- ・ 所管の各学校における教育課題の解決
- ・ 市町教育委員会主催の研修会の講師選定の資料

<学校>

- ・ 校内研修会の講師選定の資料
- ・ 教員の資質向上に関する研修情報

<教員>

- ・ 教員と長期派遣研修者の情報交換
- ・ 長期派遣研修者相互の連携強化

○ 掲載対象

直近3年間の長期派遣研修者を対象として掲載しています。

1 山口大学及び山口県立大学大学院派遣研修

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校 (H30年度)			研究テーマ及び実績
H26 ～ H27	山口大学大学院 教育学研究科	指導 主事	齋藤 尚子	上関町 教育委員会	小学校低学年で問題行動を示す児童に向けたティーチャー・トレーニングの実践 岩坂英巳(2012)「困っている子をほめて育てるペアレント・トレーニングガイドブックー活用のポイントと実践例ー」と奈良教育大学特別教育研究センター(2015)「ティーチャー・トレーニング養成講座」で紹介されたプログラムを少人数用に改訂し、実施した。実施前後のアンケート調査や児童の実態の記録から、成果と課題及び今後の実践の可能性について検討した。
H26 ～ H27	山口大学大学院 教育学研究科	教諭	上田 雅純	山口市立 仁保小学校	表現運動実践の可能性に関する研究 舞踊固有の意義や価値、体育・スポーツ界におけるジェンダー・バイアスの影響を受けた日本におけるダンス教育について明らかにしていった。そして、明らかになった観点を実践的な授業の場に生かす手立てを模索し、実験的授業実践を行い、今後の表現運動授業作りのポイントを明らかにした。
H26 ～ H27	山口大学大学院 教育学研究科	指導 主事	楢山 啓二	山陽小野田市 教育委員会	全員が参加し、全員が理解する社会科授業ー歴史に関する討論を通してー 児童アンケートから、全員が参加し全員が理解する社会科授業が必要であると考えた。学習方法を討論に定め、研究テーマを意識した授業実践を行った。実践の中で生じた課題を意識して新たな実践授業を行うという方法で課題の解決に迫った。最後に、本研究により生じた教師としての自身の変容をまとめた。
H26 ～ H27	山口大学大学院 教育学研究科	研究 指導 主事	松田 雄輔	やまぐち総合教育 支援センター	説明的文章の単元計画についての研究-単元計画指標モデルの作成を通して- 説明的文章の単元計画を誰もが構想できる方法として「単元計画指標モデル」を案出した。それに基づいて単元計画を構想し、実践することで「単元計画指標モデル」の有用性について考察を行った。
H26 ～ H27	山口大学大学院 教育学研究科	教諭	白濱 美緒理	山口県立 防府総合支援学校	学校不適応行動に対する見立ての視覚化と その共有効果 認知行動療法的アプローチによる不適応行動の見立て図(アセスメントシート)を作成し、その図を教員が共有する効果について、ケース会議の逐語録や評価アンケート、学校適応感尺度の結果をもとに検証した。
H27 ～ H28	山口大学大学院 教育学研究科	教諭	高畑 志津子	光市立 光井小学校	算数科における小中連携に関する研究 ー関数の指導に焦点を当ててー 小中連携教育を算数科・数学科の教科連携教育、特に関数の指導に焦点を当て、関数の学習内容や指導方法、順思考、逆思考を取り入れた授業実践を行うことで、小学校から中学校へのつながり、学び方のつながり、学習内容の系統性のつながりについて、授業を通じて検証し、考察を行った。
H27 ～ H28	山口大学大学院 教育学研究科	教頭	郡司 浩史	岩国市立 御庄小学校	ICTを使った理科の授業に関する研究 ICTの活用による教育の質の向上を理科の授業をもとに分析した。予想をもとにした話し合い活動や結果から考えをまとめる場面において、友達と対話しながら協働する学習について、ICT機器の活用が効果的であることが示された。
H27 ～ H28	山口大学大学院 教育学研究科	教諭	西村 幸治	下関市立 熊野小学校	教育資料館を取り巻く学校環境のあり方の改善を目指したアクションリサーチ 教育資料館等の特色ある施設を学校教育環境の改善を目的に、場の改善(教育資料館自体のキュレーション)、人の改善(郷土委員、教職員、学芸員)、組織の改善(教職員組織、管理職、地域)という3つの視点で、現地調査、聞き取り調査を実施した。
H28 ～ H29	山口大学大学院 教育学研究科	教諭	河田 久美	山口県立 周防大島高等学校	高校版コミュニティ・スクールの可能性について 山口県の小・中学校のコミュニティ・スクールの現状を調べ、それを踏まえて高校ならではのコミュニティ・スクールの在り方を周防大島高校の取組の成果と課題の検証等を通して考察し、高校版コミュニティ・スクールの今後の展望を探った。
H28 ～ H29	山口大学教職大学院	指導 主事	茂田 幸恵	岩国市教育委員会 学校教育課	教職員の資質能力向上、意識改革 小中一貫教育・地域との連携に視点をあてた取組を通して、教職員の意識改革、資質能力向上をめざした「組織づくり」について研究を行った。さらに、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの一体的なマネジメントの成果と課題、今後の取組の方向性について検証した。

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校(H30年度)			研究テーマ及び実績
H28 ～ H29	山口大学教職大学院	指導 主事	中原 恵子	柳井市教育委員会 学校教育課	学びをつなぐ研修コーディネーターとしての役割(人材育成)
					市内全域の研修コーディネーターとして「虹の架け橋7C'S(セブンシーズ)」という研修モデルを提案し、市内各校と大学、行政、企業や地域の方々と連携・協働する研修を仕組んだ。自ら学ぶ教員の育成に向けて、「RAINBOWルーブリック」という育成指標を開発した。
H28 ～ H29	山口大学教職大学院	教諭	室内 文彦	光市立 室積中学校	小中連携教育を核としたコミュニティ・スクールの推進
					連携・協働が難しいといわれる分離型(1中多小)中学校区におけるコミュニティ・スクールの効果的な進め方について研究し、その成果を、「3つの提案とその効果」という形でまとめた。その際、同じ課題を抱える県内の他の中学校区にも汎用できるものとした。
H28 ～ H29	山口大学教職大学院	教諭	三時 和久	山口市立 阿知須小学校	学校評価アンケートに基づく研修計画の開発に関わる実証的研究
					学校評価アンケートの経年変化を分析し、学校課題だけでなく、生徒や保護者、教職員等に受け継がれた習慣や文化といった学校の強みを明らかにした。そして、気持ちのそろう教職員集団の形成をめざし、分析結果を活かした校内研修計画を新たに開発・実践し、実証的検証を行った。
H28 ～ H29	山口大学教職大学院	指導 主事	常岡 敏行	下関市教育委員会 教育研修課	下関市における小中一貫教育のより良いあり方
					2小1中の中学校区における「児童生徒のつながり」「教師間のつながり」「カリキュラムのつながり」「情報のつながり」を意識した実践をとおして、児童生徒一人ひとりのよりよい成長につながるための小中一貫教育のあり方についての研究を行った。
H28 ～ H29	山口大学教職大学院	教頭	重永 美津子	長門市立 向陽小学校	9年間の学びをつなぐ小中一貫教育 一学びの基礎・基本となる「言語力の育成」を通して
					学びの基礎・基本である「言語力」を核として、9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の研究を行った。その際、カリキュラムを編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立することをベースとして、①学びの核に、基礎・基本となる「資質・能力」を位置付け、②学びの面での「組織的なシステムづくり」、③子どもの視点に立った「学び方」を提案した。

2 博物館長期体験研修

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校 (H30年度)			研究テーマ及び実績
H27	山口県立山口博物館	教頭	白石 和美	周防大島町立久賀中学校	博物館の教育資源を活用した学習プログラムや教材の開発および博物館と学校・地域との連携促進 学術資料を積極的に活用するとともに、学芸員と協力することで、利用者に実感を持った理解ができるような教材の開発を行った。また、公民館活動や小規模校の出前授業でも学習プログラムを工夫したり、出向いた地域の教育資源を活用することで、児童生徒により親しみや興味をもたせることができた。さらに、地域の公民館活動やコミュニティスクールとの新たな連携の可能性も見いだすことができた。
H27	山口県立山口博物館	教諭	落合 一郎	下関市立垢田中学校	博物館の教育資源を活用した様々な出前授業プログラムや教材の開発、コミュニティスクールを含めた博物館と学校・地域との連携促進の仕方の研究 県立博物館の教育資源を学校教育現場に活用するための方法や、学習プログラム・教材の開発等について研究した。出前授業では、博学連携・コミュニティスクール・異校種間連携・地域との連携について、研究を進めた。山口県内の自然や文化・科学的資源を見学し、それを授業などに活用することができた。さらに、他都県の博物館や研究施設を訪問し、広い視野からの博学連携や授業の教材開発等について、さらに深めることができた。
H27	山口県立山口博物館	主査	藤本 真也	下関市教育委員会生涯学習課	博物館の多様な機能を教育現場でより深く活用できるよう、博物館・学校・地域の連携について研究を深める。 博物館の豊富な資料・教育資源を活用し、異学年交流や地域の自然や文化財を生かした授業の工夫・改善を行った。学校や地域に出前授業プログラムや博物館資料を紹介することで、県内の教育資源として博物館の利用促進を図った。また、県内外で活躍する学校や公共機関・地域の関係者から助言を頂き、研修を深め児童生徒の学習意欲を高めるための指導技術を向上させた。
H27	山口県立山口博物館	教諭	松田 高広	周南市立沼城小学校	博物館の貴重な学術資料を活用したり、学芸員と協力したりして事業を実践することで、子どもの理科・社会科教育に対する興味・関心を高める教材研究と開発を行う。 博物館のもつ多種・多様な教育資源と小中学校の学習内容との関連を明確にし、現在の学習プログラムのプレゼンテーションの作成・見直しを行いながら新しい学習プログラムの開発を図った。県内の様々な教育資源をプログラムに組み入れ、興味関心の高揚を図った。また、学校での学習内容につなげるため、学校との打ち合わせを重視し学習指導要領に即した内容を展開した。
H28	山口県立山口博物館	教頭	岡田 浩典	長門市立仙崎中学校	博物館の優れた教育資源を積極的に活用して「本物にふれる」事業を企画・実践することで、児童生徒の自然への興味・関心を高め、実感をともなった理解を図るとともに、教員としての資質・能力の向上を図る。 学校・地域と連携を図りながら、出前授業や社会見学等で「本物にふれる」体験的な学習やものづくりを行うことで、主体的・対話的で深い学習をすることができた。学習意欲が高まり、学びがさらに深まるような新たな教材を開発し、実感を伴った理解を促進した。特別展やテーマ展示には企画段階から関わり、顧客のニーズを意識した取組を行った。学校の授業での博物館の更なる活用を図るために、「山口博物館 学習の手引き」を作成した。
H28	山口県立山口博物館	教諭	田中 聡	山口市立宮野中学校	博物館の物的・人的資源を活用し、本物の資料を見たりさわったりできる教材や学習プログラムを開発することで、児童生徒の興味・関心を高める方法を探索するとともに、出前授業や館内授業などの実践研修を通して、博物館と学校との連携による学習支援の方法について研究を深める。 専門的な知識・技能をもつ学芸員からの研修や特別展、出前授業などの準備を行っていく中で、生徒の理科に対する興味・関心を高める教材を多く得ることができた。社会見学では、再度見学コースの一部として考えてもらえるよう博物館ガイドを改善した。また、利用しやすくするために、内容を5つにまとめ、自由に組み合わせでコース化できるようにした。職場体験学習では、生徒とともに、学芸員の仕事の説明やバックヤード見学を一緒に行うことで、博物館の仕事の内容や展示の工夫、展示内容についてより詳しく知ることができた。
H28	山口県立山口博物館	社会教育主事	上重 卓広	山口市教育委員会社会教育課	博物館の収蔵資料や学芸員の専門的な技術や知識を、学校や地域の教育活動に生かす方策を探索するとともに、博学地域連携のこれからの在り方について調査研究をする。 収蔵資料や専門的な技術や知識を学芸員からの様々な研修機会を通して身につけるとともに出前授業の中でそれらを主体的・対話的で深い学習とするべく教材研究にも積極的に取り組んだ。出前授業や館内授業では、児童生徒が本物の魅力と自然科学への興味・関心を抱くことができた。また、地域コーディネータの協力のもと、地域・学校・博物館が一体となって行った出前授業では、博学地域連携の新たな在り方を提案することができた。
H28	山口県立山口博物館	教諭	川橋 保夫	防府市立大道小学校	博物館のもつ優れた教育資源をもとに、専門的知識を有する学芸員と協働して事業を企画・運営・改善をすることを通して、児童生徒が科学的興味・関心を高め、探求しようとする思いを育む方策について研修し、教員としての資質・能力の向上を図る。 専門的な知識を持つ学芸員とともに研修を進めることを通じて、専門的な知識や調査の方法を身につけることができた。また、博物館の収蔵資料の魅力や児童生徒がより体験でき、実感を伴った理解ができるよう出前授業の内容や提示の方法を検討し、積極的に改善した。出前授業アンケートをとったことで、利用者の視点から見た出前授業中の指導生徒の生き生きとした姿や授業の改善点を知ることができ、その後の出前授業の改善に役立てることができた。

H29	山口県立山口博物館	教頭	小野 雅弘	山陽小野田市立 埴生中学校	<p>博物館の優れた教育資源を積極的に活用して「本物にふれる」事業を企画・実践することで、児童生徒の自然への興味・関心を高め、実感を伴った理解を図るとともに、教員としての資質・能力の向上を図る。</p> <p>博物館所蔵の貴重な物的・人的教育資源を積極的に活用するとともに、専門的な知識や技能をもった学芸員と協力して事業を実践することができた。出前授業や館内授業はもちろんのこと、今年度は、4市・1大学の科学イベントに出展し、児童生徒及び一般の方にも「本物にふれる」場を提供した。この実践の中で「実感を伴った理解」ができるような教材の開発を行い、興味・関心を高めることができたと考えている。また、新学習指導要領の告示を受け、出前授業における「主体的・対話的で深い学び」につなげる学習プログラムの工夫、プログラミング教育に準拠した学習プログラムの作成などの取組を、ミュージアムティーチャーで協力して行うことができ、自身の資質向上にもつながったと考えている。</p>
H29	山口県立山口博物館	教諭	片山 博登	岩国市立 周北小学校	<p>博物館の人的・物的・事的教育資源を学校現場に積極的に活用し、本物体験による児童の深い学びの成立をめざす指導法の開発を行う。また、「やまぐち型地域連携教育」の推進を通して、学校と地域、博物館のより良いかわり方を研究し、教員としての資質・能力の向上を図る。</p> <p>博物館の教育環境を生かしたアクティブラーニング型出前授業の開発と実践を行った。博物館の教育資源をもとに、主体的、対話的な学習を設定し、その学びを生かした観察・実習の体験的な学習を行うことで、深い学びに結びくように学習展開を設計した。特に、プログラミング教育に対応したプログラム開発では、アンブラッド学習法を活用し、児童のプログラミング的思考を生み出す授業を実践することができた。この経験を今後の教材研究や授業実践に生かしていきたい。また、出前授業先での教育情報をなるべく多くニュースで発信し、博物館と学校、地域を結びつけるという活動に関わった。これら博物館でしかできない研修により、教員の資質・能力の向上につなげることができたと思う。</p>
H29	山口県立山口博物館	教諭	弘永 真理子	下関市立 吉田小学校	<p>キャリア教育に博物館を生かす方法の研究と実践</p> <p>博物館は人的物的の両面で、キャリア教育に最適な場であるということを実感し、その生かし方について研究することができた。まず、7つの分野それぞれの学芸員の方からの指導を受け、博物館について知るとともに、理科的社会的な指導の技術を体験的に学ぶことができた。そしてそれらを生かして出前授業や館内授業、社会見学団体への対応などに取り組んだ。出前授業では、比べて考えたり友達と話しあったりと、主体的に関わりあいながら学べるプログラムを工夫した。また、新学習指導要領に合わせて、どのようにすれば博物館を幅広く活用してもらえるかを考え、ニュースレターやキャプション作りにも取り組んだ。博物館は他の機関との連携を行っていることや、学芸員以外にも職員やサポーターなどたくさんの方の支えが欠かせないことも学んだ。自分自身が、体験によって「もっと知りたい学びたい」と思い、山口について知るたび「ここで生まれて良かった」と誇らしい気持ちになった、この湧き上がる思いこそがキャリア教育で育みたいことだと考える。自らの実感を今後教育現場で児童生徒の実感へとつなげていくつもりである。</p>

3 幼児教育長期研修

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校 (H30年度)		研究テーマ及び実績
H27	岩国市立 玖珂幼稚園	教諭	周山 佳織 岩国市立 玖珂小学校	幼児期から学童期への移行をなめらかにするための支援のあり方 ～園児・児童・教育現場の実際に即したつなぎ～ 幼児期の発達特性に応じた指導内容と指導方法を学び、特に、特別な支援を必要とする子どもたちの支援の方法について理解を深めた。また、幼稚園の保護者向けに通信を発行するなど、保護者との連携の在り方について提案した。
H27	麻郷幼稚園	教諭	磯村 恵子 上関町立 上関小学校	幼児期の育ちや学びを学童期へとつなぐよりよい指導・支援 幼児期の育ちや学びの特性、幼児期の発達段階に応じた指導方法や支援の在り方について理解を深めた。その成果を反映した「スタートカリキュラム案」を作成し、市町の幼保・小連携協議会等で提案するなど、幼保・小連携の推進につなげた。
H27	小野田めぐみ幼稚園	教諭	長谷川 淑子 山陽小野田市立 小野田小学校	幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続を見通したカリキュラムの作成 幼稚園、小学校とのつながりを築くために、園児と小学生の交流、教員の交流を企画・運営し、互恵性のある連携の方法について提案することで、地域の幼保・小連携を推進した。さらに、子どもの様子をもとに、「アプローチカリキュラム」を作成した。
H27	下関市立 豊浦幼稚園	教諭	吉井 朋子 下関市立 豊浦小学校	幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続のための指導・支援・連携の在り方 幼児期の育ちや学びを生かした、小学校教育の指導・支援の在り方について理解を深めた。また、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を目指した連携について研究し、スタートカリキュラムの見直しを行うとともに、幼保・小連携全体構想図や連携計画表を作成した。
H28	周南市立 桜田幼稚園	教諭	岡村 きよみ 周南市立 戸田小学校	幼児教育から小学校教育への接続をよりなめらかにするための指導・支援・連携の在り方 幼児期の育ちや学びを児童期へと円滑につなげるため、幼児期の育ちや学びの特性及びそれを踏まえた幼児教育の指導・支援の方法について理解を深めた。また、幼児と児童の交流活動や教職員の交流、幼保・小の連携方法を見直し、充実を図った。さらに、スタートカリキュラムを見直し、就学児のやる気を引き出すアプローチカリキュラムを考案した。
H28	鋼板幼稚園	教諭	福田 恵美奈 下松市立 公集小学校	子どもの意識と生活を円滑につなぐスタートカリキュラムの作成と総合的な指導の研究 幼児期に遊びを通して身に付ける非認知的能力について理解を深めた。在籍校などのスタートカリキュラムの実施状況や課題を把握して、内容の再検討を行い、より新入児の実態に即したカリキュラムを作成した。
H28	小松原幼稚園	教諭	吉本 真澄 宇部市立 上宇部小学校	幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るためのよりよい支援のあり方 幼児期から児童期にかけての発達特性及び幼児期の教育内容の把握と環境構成について理解を深めた。また、特別な支援を要する子どもへの適切な支援の在り方や、幼児教育から小学校教育への発達の連続性を意識した支援のあり方について研究し、よりよい幼保・小の連携の在り方や、スタート・カリキュラムについて考案した。
H28	下関市立 川棚こども園	教諭	岡崎 祥子 下関市立 角倉小学校	幼児期の育ちや学びをつなぐ小学校生活スタートのための指導・支援・連携の在り方 幼児期の子どもの育ちや学びについて理解を深め、効果的に小学校入学後の生活や学習につなぐ方法について研究した。また、年長児の経験や遊びを捉えたり、保護者と関わったりすることを通して、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムについて考案した。
H29	下関市立 生野幼稚園	教諭	森山 良枝 下関市立 生野小学校	幼児期の育ちや学びをつなぐ幼保・小の指導・支援・連携について 実践記録を蓄積・考察することにより、育ちや学びの連続性を踏まえた幼稚園での保育方針を理解した。また、スタートカリキュラムの見直し、改善を行うとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教科等との関連一覧表」を作成した。さらに、派遣園での園内研修、他校、他園の研修会への参加等を通して、個別の支援や特別な配慮を要する子どもの特性を理解し、支援の在り方を学んだ。
H29	旭幼稚園	教諭	田口 由布子 山口市立 平川小学校	幼児教育から小学校教育へのゆるやかな移行のための指導・支援・連携の在り方 保育者の教育・保育の取組を観察・記録することで、小学校教育につなげられることや授業の中で取り入れられる手法について検討、考案した。また、スタートカリキュラム実施状況の確認及び改善、アプローチカリキュラムの作成に取り組んだ。さらに、作成したカリキュラムを他園にも配付し、幼小の円滑な接続に向け情報発信を行った。
H29	光市立 やよい幼稚園	教諭	梶野 愛子 光市立 三井小学校	接続期を見通した幼児教育と小学校教育の連携の在り方 保育参観・授業参観を通して、よりよい幼保・小連携の推進を図った。また、在籍小学校と幼稚園・保育所の交流活動の効果の検証、改善を行った。さらに、既存のスタートカリキュラムを見直し、交流活動の成果や課題をふまえ、幼小の円滑な接続に向けた接続カリキュラムの作成を行った。

4 自然体験活動等長期研修

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校 (H30年度)			研究テーマ及び実績
H27	山口県十種ヶ峰 青少年自然の家	教諭	上野 剛	山口市立 小鱈小学校	子どもの自尊感情を育む家庭教育に関する研究 —AFPYを取り入れた家族のふれあいを通して— 家庭でAFPYに取り組むことで、家族のふれあいが促進され、子どもの自尊感情を育むことができるのではないかと考え、家庭におけるAFPYの取組を促した。子どもの自尊感情の変化と家庭でのAFPYの取組との関係を明らかにするため、アンケート調査を行い、分析・考察を行った。
H28	山口県十種ヶ峰 青少年自然の家	指導 主事	末廣 俊夫	山口県十種ヶ峰 青少年自然の家	児童と地域住民相互の自己有用感を醸成するための研究 ～AFPYの手法を用いた地域交流を通して～ AFPYの手法を用いた地域交流を行うことで、自分の存在を価値あるものとして受け止めるようになり、児童と地域住民相互の自己有用感を醸成する効果があると考え、地域活動における活動の支援を行った。「自己有用感尺度」を参考に10項目を設定した質問紙を作成しアンケートを行い、分析・考察を行った。
H29	山口県十種ヶ峰 青少年自然の家	教諭	西田 聡	宇部市立 神原小学校	体験活動における他者意識の向上に関する研究 ～児童生徒の効果的な「ふりかえり」を通して～ 体験活動のふりかえりを、ステップ1「ほめ合う」→ステップ2「気付く」→ステップ3「日常生活につなげる」という3つのステップを踏んで支援することにより、児童生徒の他者意識は向上すると考え、とくさがみね森のチャレンジコースの指導研修を通して実践・検証した。

5 やまぐち総合教育支援センター長期研修

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校 (H30年度)			研究テーマ及び実績
H27	やまぐち総合 教育支援センター	教諭	活田 宏之	下関市立 垢田中学校	数学的な思考力・表現力を高める中学校数学科の指導に関する研究 中学校数学科において、既習事項を整理して思考を可視化し、可視化された考えを用いて協働的に学び合いながら問題解決を行う学習の場を設定することで、生徒は多様な考え方に触れながら互いに思考を深め、表現方法を共有し、言葉や式、図等の数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現できるようになり、数学的な思考力・表現力を高めることができるか検証した。
H27	やまぐち総合 教育支援センター	指導 主事	関本 幸司	美祢市教育委員会 学校教育課	コミュニケーションへの積極的な態度を育成する外国語活動の指導に関する研究 小学校外国語活動において、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するために必要なコミュニケーションスキルアップリストを作成し、振り返りの場面で活用した。1回目の振り返りは個人の改善ポイントを意識化するために、2回目の振り返りは自己の伸びを自覚するために用い、そこで得られた達成感が有能感へとつながり、コミュニケーションへの積極的な態度が育成できたか検証した。
H27	やまぐち総合 教育支援センター	教諭	竹重 照美	山口県立 西京高等学校	特別支援学校高等部生徒の働く意欲を培う職業教育の充実に関する研究 従来の作業学習に地域と連携した製品づくりと販売実習を取り入れる実践を行った。地域の人々との交流の中で、製品を作る喜びや届ける喜びを味わい、地域に貢献しているという実感をもち、仕事に対するやりがいを見出し、働く意欲を培うことができることを検証した。
H27	やまぐち総合 教育支援センター	教諭	田中 哉佳	宇部市立 西宇部小学校	数学的な思考力・表現力を育成する小学校算数科の指導に関する研究 確認ボードの使用と学習形態の工夫を取り入れた多様な表現様式を関連付けながら、考えを伝え合う活動を通して、数学的な思考力・表現力を育成することをめざした。第6学年の児童を対象とした授業実践を通して、その効果を検証した。
H27	やまぐち総合 教育支援センター	教諭	出水 一弘	山口県立 西京高等学校	商業科の科目「商品開発」における問題解決力を高める指導に関する研究 生徒の顧客満足を実現する意識と、商品開発を進める上で必要とされる問題解決力(分析する力、創造する力、人間関係を形成する力)を高めるために、商業科の科目「商品開発」において、企業と連携・協働して作成した教材でケーススタディを実践し、効果を検証した。
H27	やまぐち総合 教育支援センター	教諭	福江 由美	防府市立 大道小学校	思いやりの心をもち、人との関わりを大切に育てる児童を育てる道徳教育の研究 「私たちの道徳」を学校、家庭で計画的・継続的に活用する二つのモデルを作成し、その実践を通して、児童の思いやりの心、人との関わりを大切にすることをめざした。第2学年の児童を対象に、家庭との連携を図りながら、モデルに基づく実践を通して、その有効性を検証した。
H27	やまぐち総合 教育支援センター	教諭	松本 妙子	光市立 浅江小学校	通級指導教室における自己調整力を高める小集団活動 対人関係やコミュニケーションに苦手さのある小学校第3学年、第4学年の児童4人を対象とした自立活動の授業実践を行った。児童の自己調整力を高めることをねらい、自分で目標を立て、客観的に自分の行動を振り返る小集団活動を工夫することを通して効果を検証した。

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校(H30年度)			研究テーマ及び実績
H27	やまぐち総合教育支援センター	教諭	吉谷 亮	下関市立 垢田小学校	音声言語による表現力を育成する小学校国語科の指導に関する研究
					タブレット型情報端末の特性を生かした自己評価活動を行うことを通して、国語科の音声言語による表現力を育成することをめざした。第4学年の児童を対象とした授業実践を通して、その効果を検証した。
H27	やまぐち総合教育支援センター	教諭	吉村 雅子	山口大学教育学部 附属山口中学校	中学生におけるレジリエンスを高める指導
					学級活動等において、スキル重視型プログラムと体験重視型プログラムを実践することで、生徒のレジリエンスを高めることをめざした。第3学年生徒全員を対象とした授業実践と継続的な取組を通して、その効果を検証した。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	伊秩 貴志	下関市立 向山小学校	小学校低学年における規範意識を高める指導に関する研究
					ソーシャル・ボンド理論における「愛着」要因を高める学習プログラムを作成し、学校、家庭、地域で連携して実践し、家庭、地域における児童の規範意識を高めることをめざした。小学校低学年を対象とした授業実践により、プログラムの効果を検証した。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	大迫 共代	宇部市立 西岐波中学校	美術作品の見方を深める中学校美術科の鑑賞指導に関する研究
					タブレット型情報端末によって、これまでに学んだ造形的な要素に関する知識を生かしながら分析することで、造形的な要素から表現の工夫や作者の表現意図を理解し、美術作品の見方を深めることをめざした。第2学年の生徒を対象とした授業実践を通して、その効果を検証した。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	大持 友之	山口市立 宮野中学校	思考を数学的に表現する意欲を高める中学校数学科の指導に関する研究
					問題解決の場面において、生徒が思考の過程を図・式・表などに表し、自他の考え方の共通点を生徒同士で認め合う活動を行うことで、数学に対する自信が高まり、思考を数学的に表現する意欲を高めることをめざした。所属校第3学年における授業実践を通して検証を行った。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	河野 亜希子	山口県立 下関南総合支援学校	特別支援学校高等部生徒の人間関係形成・社会形成能力を育む指導に関する研究
					人間関係形成・社会形成能力を構成している五つの要素を高めるために関わり合う活動に視点を当てた「地域へつなぐ」プランを作成し、実践した。教員が共通の指標で生徒の実態把握、目標設定、評価をすることが可能となるように、人間関係形成・社会形成能力の行動の段階表を作成し、活用した。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	蒼下 和敬	山口県立 響高等学校	高等学校地理における論理的思考力・表現力を高める指導に関する研究
					資料から読み取った情報を基にした考察、説明する力の育成を通して論理的思考力・表現力を高めるため、資料分析や班協議を通じた探究的な学習を通して生徒が社会的現象の背景や構造を考察、説明できるような授業モデルを開発して授業を実践し、考察を行った。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	末富 令子	防府市立 右田中学校	道徳教育の充実に関する研究
					道徳科の実施に向けて、「考える道徳」「議論する道徳」の授業づくりと評価の在り方に関する研究を進めた。授業づくりの視点を明確化するとともに、授業のイメージ図を作成し、これらに基づいた授業実践を通して、指導方法とその具体的な手だてについて分析、考察を行った。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	津守 陽子	山口市立 大殿中学校	相手に伝わりやすく自己表現できる生徒を育成する中学校外国語科(英語)の指導に関する研究
					自分が表現したことに対して相手からの提案や質問があることで、より伝わりやすく自己表現できるようになると考えた。効果的に表現を改善できるよう、提案や質問を記録するSQシート(S: suggestion, Q: question)を作成した。そして、SQシートを活用した「つながる」活動を通して、相手に伝わりやすく自己表現できる生徒を育成することができるか検証した。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	徳永 裕	防府市立 新田小学校	生きた知識が身に付く小学校理科学習モデル
					既存の知識や経験と関連付けながら、理由や根拠まで納得しながら学ぶ「気付けて学ぶ活動」と、活動を展開するための問いかけを整理し、学習内容を生きた知識として身に付ける学習モデルを構築し、授業実践を通して分析、考察を行った。
H28	やまぐち総合教育支援センター	教諭	内藤 和典	周南市立 熊毛中学校	生きた知識が身に付く中学校理科学習モデルの構築
					生徒が理科の学習内容を分かって使える「生きた知識」として身に付けるために、学習内容の系統性や考え方の関連性を重視した問いかけに基づき、理由や根拠の納得を伴って学ぶ「気付けて学ぶ活動」を授業に取り入れた。授業実践を通して、その有効性を検討した。

H29	やまぐち総合教育支援センター	社会教育主事	桑原 武夫	下関市教育委員会	<p>目的に応じて表現・語彙を活用する力を育てる外国語活動の研究 -ICTによる外国語学習支援ツールの開発とその利用を通して-</p> <p>児童が目的に応じて表現・語彙を視覚的・聴覚的に参照することができ、操作の過程で文構造等への気付きも得られる、汎用性の高いツールをICTにより開発し、公開した。ツールを利用する授業の研究を行い、「話すこと[発表]」及び「話すこと[やり取り]」を中心に、4技能5領域における活用する力の向上等に関わる効果を分析・検証した。</p>
H29	やまぐち総合教育支援センター	教諭	西村 和子	萩市立萩東中学校	<p>論理的な思考力を育む中学校国語科(文学的な文章)の指導に関する研究 -「根拠・理由・主張」の3要素を基にした対話活動を通して-</p> <p>文学的な文章の授業における文章の解釈の学習で、「根拠・理由・主張」の3要素を基にした、知識構成型ジグソー法による対話活動を行うことにより、描写に基づいて的確に文章を解釈し、説明する力を育むことをめざした。第1学年と第2学年の生徒を対象とした授業実践を通して、その効果を検証した。</p>
H29	やまぐち総合教育支援センター	教諭	國居 朋子	山口県立高森高等学校	<p>高等学校国語科「読むこと」において思考を深める指導に関する研究 -リテラチャー・サークルの手法を取り入れた学習活動を通して-</p> <p>論理的な文章にアプローチし、文章構成や表現形式を批評する着眼点となるような読むときの方法を考案した。対話的な学びを行いながら読むときの方法に従って読み、考える授業形態をつくり出し、その効果について分析、考察を行った。</p>
H29	やまぐち総合教育支援センター	指導主事	廣末 唯	周南市教育委員会	<p>「考え、議論する道徳」の授業づくりに関する研究 -登場人物に照らして見つめ直した自己の思いや考えを基に他者と対話する活動を通して-</p> <p>道徳の授業において児童がしっかりと自己を見つめ、その過程で生まれた思いや考えを他者と伝え合い、吟味できるような活動とそれを実現するための具体的な手立てを考案した。そして授業実践を通して、その有効性について分析、考察を行った。</p>
H29	やまぐち総合教育支援センター	教諭	濱田 篤司	下松市立花岡小学校	<p>生きた知識が身に付く小学校理科学習モデルの構築 -問い直しによって、気付いて学ぶ活動と学習した内容を結ぶ提案-</p> <p>気付いて学ぶ活動を生かした振り返りの中での手立て「問い直し」を提案し、その効果について、児童の振り返りの記述、テストの達成率、アンケート結果を分析、考察を行った。</p>
H29	やまぐち総合教育支援センター	教諭	高村 大輔	山口大学教育学部附属山口中学校	<p>生きた知識が身に付く中学校理科学習モデルの構築 -使ってみることで、気付いて学ぶ活動でつかんだ知識の質を高める提案-</p> <p>気付いて学ぶ活動でつかんだ知識をもう一度使う場面を設けることで、生徒が何を学び、何ができるようになったのかを実感することを目指した。その効果について、授業前後の生徒の変容、アンケート結果やテストの達成率を分析し、考察を行った。</p>
H29	やまぐち総合教育支援センター	教諭	西村 史代	山口市立大内小学校	<p>「いじめの未然防止」に向けた計画的・総合的な取組に関する研究 -「STOP!!いじめ～今日からできる10のポイント～」に基づいた実践を通して-</p> <p>「STOP!!いじめ～今日からできる10のポイント～」に基づいた計画的・総合的な「いじめの未然防止に向けた年間取組計画」(アクションプラン)を作成するとともに、具体的な取組(授業等)を実践した。</p>

6 特別支援教育長期研修教員派遣

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校 (H30年度)			研究テーマ及び実績
H27	山口大学教育学部	教諭	片山 敦子	周南市立徳山小学校	<p>読み書きにつまづきのある児童への校内通級における指導・支援～アセスメントの分析からつまづきの要因や支援方略を明確にし、学習スタイルを構築するための支援～</p> <p>「多層指導モデルMIMIによる読みの指導・支援」、「漢字書字の指導・支援」、「デザイン教科書を用いた先行学習での音読指導・支援」に関する実践研究を行い、通常の学級で般化できる読み書きの指導・支援について考察した。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	新山 律子	光市立光井小学校	<p>通常の学級における児童と担任の変容をめざしたコンサルテーション</p> <p>多動傾向のある児童が複数名在籍する学級の担任を対象に、授業開始時における注目行動を促す支援について行動コンサルテーションを継続的にを行い、その効果について検証した。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	奥野 圭子	下関市立川中小学校	<p>通常の学級のすべての子供たちが安心して学習に取り組み、「わかる・できる」を実感できる授業づくり～ユニバーサルデザインの視点をもった理科の授業づくりをととして～</p> <p>特別支援に関する文献研究や講義・研修会に参加して得られた知見を生かし、「板書やワークシートの工夫」等、ユニバーサルデザインの9つの視点を取り入れた板書型指導案を作成した。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	山田 恵子	山口県立徳山総合支援学校	<p>自閉症生徒のコミュニケーション能力を高める指導について</p> <p>行動コンサルテーションの手法を用い、自閉症のある特別支援学校中学部生徒の問題行動を分析し、報告行動と援助要求行動の形成等、不適応行動の改善につなげるための支援を考察した。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	島岡 智子	山口県立防府総合支援学校	<p>特別支援学校における行動問題を示す生徒への支援</p> <p>特別支援学校中学部生徒の「教師への身体接触行動の低減」、「逃避行動の低減」等、生活年齢を考慮した4件の行動コンサルテーションを実施し、その効果について検証した。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	川合 清美	山口県立山口南総合支援学校	<p>特別支援学校に在籍する児童の行動変容をめざした支援の方法について～応用行動分析学からみる具体的な支援の方法～</p> <p>応用行動分析学の文献研究を行うとともに、原籍校で小学部児童の登校後の逸脱行動を減少させ、「スムーズな朝の片付け活動」の実現に向けた行動コンサルテーションを行い、その効果について検証した。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	杉山 道子	山口県立山口総合支援学校(みほり分校)	<p>特別支援教育における音楽療法的アプローチ～「同質」と「即興」の手法を取り入れた音楽活動の展開～</p> <p>特別支援学校に在籍する中・高等部の生徒を対象に、音楽療法における「同質」と「即興」の手法を用いて、「つながりの構築」、「感情の浄化・発散」、「自己肯定感の向上」等を促す授業実践を行い、その効果について考察した。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	宮川 百合子	山口県立宇部総合支援学校	<p>社会的自立と就労を見据えた特別支援学校中学部におけるキャリア教育の取組</p> <p>組織的・体系的キャリア教育を目指し、アンケート調査や授業実践をととして、中学部段階における、将来の社会的自立と就労に向けた具体的な指導内容及び指導方法について考察した。</p>
H27	山口大学教育学部	教頭	山本 礼子	山口県立宇部総合支援学校	<p>特別支援学校におけるキャリア発達を促す衣服指導について～生徒(重度・重複障害を含む)の衣服の自己選択によるQOLの向上～</p> <p>衣服選びにシミュレーションソフトを使って、障害の重い生徒にも「自分らしさ」、「なりたい自分」を意識させ、また、「ファッションショー」を開催して、衣服への関心を持たせるとともに、自己有用感を高める、家庭科とキャリア教育の複合的な実践研究を行った。</p>
H27	山口大学教育学部	教諭	貞光 由希	山口県立下関総合支援学校	<p>児童生徒の意欲を高める支援の方法～働く意欲と生活意欲に焦点をあてて～</p> <p>知的障害のある生徒の認知特性に配慮した映像教材の活用や地域と連携した進路体験を通して「働く意欲」を高める授業実践を行い、キャリア発達を促す指導手続きと効果について検証した。また、逃避行動を軽減するための行動コンサルテーションを行い、「生活意欲」との関連について考察した。</p>
H28	山口大学教育学部	教諭	赤木 直枝	周南市立久米小学校	<p>行動問題を示す児童への支援方法 ―ASD児に対する行動コンサルテーションの効果―</p> <p>原籍校において、緊急性の高い行動問題に効果的で、かつ経験年数の短い教員にも取り組みやすい行動コンサルテーション手法を取り入れた実践的研究を行った。</p>

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校(H30年度)			研究テーマ及び実績
H28	山口大学教育学部	教諭	芳川 晶子	長門市立 仙崎小学校	通常の学級における特別支援教育の視点を生かした指導・支援のあり方 教職経験の短い担任をコンサルティとし、通常の学級に在籍する児童の「逸脱行動」を減少させるための行動コンサルテーションの効果及び所属する学級集団への波及効果(時間内遂行スキルの形成)について考察した。
H28	山口大学教育学部	教諭	伊藤 淳美	岩国市立 愛宕小学校	「正の強化」を中心とした特別支援教育の推進 ―通常学級に在籍する児童への支援を通して― 原籍校において、通常の学級に在籍する感情のコントロールに課題のある児童を対象とした行動コンサルテーションを通して、行動問題として表出されていた「情動」を言語化等の適切な形で表出に移行するために必要な指導介入方法について検証した。
H28	山口大学教育学部	教諭	原田 順子	光市立 光井中学校	中学校特別支援学級に在籍するディスレクシアの生徒に対する学習支援の実践的研究 ディスレクシアの生徒を対象とした、英語の課題ワークの学習支援及び英単語習得のための記憶支援について検証を行い、本人の特性を踏まえた学習意欲を維持する効果的な学習方法について考察した。
H28	山口大学教育学部	教諭	清水 俊輝	光市立 浅江中学校	特別支援教育のニーズのある子どもにおける小学校からの効果的な引継ぎに関する研究 在籍する中学校区の小・中学校間の引継ぎに関する実態調査を行い、引継ぎの課題を整理するとともに、各校の工夫した取組等から「小中連携した引継ぎに関する実践」の在り方を検討した。
H28	山口大学教育学部	養護 教諭	福光 由紀恵	山口県立 高森高等学校	高等学校教育へのユニバーサルデザイン導入の取組について ―一人ひとりの生徒が輝く学校づくり、小さなことから一歩ずつ― 原籍校において、養護教諭の立場から「環境整備」「生徒指導」「授業」のユニバーサルデザイン導入を提案をし、その成果を確認した。また、特別支援教育の先進的な取組を実施している県外の高等学校を訪問し、現状をまとめた。
H28	山口大学教育学部	教諭	周防 美佳	山口県立 下関総合支援学校 (高等部)	特別支援学校における教員支援のあり方について ―指導上の悩みを抱える教員への支援を通して― 原籍校において、特別支援教育の教職経験が短い教員を対象にした意識調査や実際の支援を通して、教員支援の在り方について考察した。
H28	山口大学教育学部	教諭	福田 秀悟	山口県立 宇部総合支援学校 (高等部)	全国の特別支援学校における技能検定の調査と分析 原籍校における喫茶サービスの授業や接客実践を通して生徒の変容や身に付けて欲しい技能について考察した。また、全国の特別支援学校における技能検定の調査・分析も行った。
H29	山口大学教育学部	教諭	森重 隆行	岩国市立 麻里布小学校	通常の学級で、教育的ニーズのある子どもが、共に学び、共に育つことができる支援の在り方について 地域コーディネーターに求められる知識・技能を整理し、通常の学級に在籍する教育的ニーズを必要とする子どもに対する実践可能な支援の在り方について実践を通して考察した。
H29	山口大学教育学部	教諭	重政 好子	岩国市立 通津小学校	小学校における特別支援教育に関する教員研修のあり方について -テキスト輪読および事例検討を通しての取り組み- 同僚性を生かすことのできる「インシデントプロセス法」を用いた教員研修のあり方について、原籍校での実践をととして考察した。
H29	山口大学教育学部	教諭	勝 茜	山陽小野田市立 厚狭小学校	学級と通級における共通の教材を活用した連携の在り方 -漢字の習得に向けた取り組みを通して- 漢字習得に困難さをもつ通級指導を受けている児童が通常の学級と通級指導教室で共通の漢字教材を活用し、双方向性のある、効果的な支援体制の在り方について、原籍校で実践研究を行い考察した。
H29	山口大学教育学部	教諭	河村 訓枝	長門市立 浅田小学校	授業場面における子どもの理解と効果的な支援の在り方について -気になるクラスへの介入を通して- 多様なニーズを有する児童が在籍する学級に対するチーム支援の在り方について、原籍校において実践を行い、効果について考察した。
H29	山口大学教育学部	養護 教諭	住吉 直子	山口県立 宇部西高等学校	高等学校における養護教諭による行動コンサルテーション実践 -不登校状態の改善をめざして- 「頻回保健室休養及び頻回欠席」行動を示す高校生に対して、行動コンサルテーションの技法を用い、不登校状態改善の効果の検証を行い、考察した。
H29	山口大学教育学部	教諭	白土 明子	山口県立 豊浦総合支援学校 (中学部)	知的障害のある中学部生徒の自己肯定感を高める地域交流のあり方 -コミュニティ・スクール導入に向けた取り組み- 知的障害のある特別支援学校中学部生徒の自己肯定感を高める地域交流のあり方について、原籍校における交流及び共同学習等の取組をまとめ考察をした。
H29	山口大学教育学部	教諭	河崎 菊乃	山口県立 下関総合支援学校 (高等部)	公立特別支援学校に在籍する知的障害生徒への行動コンサルテーション実践 -作業学習における行動問題の改善をめざして- 知的障害のある特別支援学校高等部生徒の「作業逸脱行動」について、行動コンサルテーションの技法を用いて行動問題の改善に向けた取組をまとめ考察をした。

7 保健体育関係教員長期研修(学校保健)

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校(H30年度)			研究テーマ及び実績
H27	山口県立大学	養護教諭	國本 華江	山口市立さくら小学校	いのちを育む子どもたちとの関わり～基本的自尊感情の確立をめざして～ 『いのち』という視点で、養護教諭として、子どもたちとどう関わっていけばよいのか、実践の振り返りをする中で考察した。『いのちの教育』実践をする上で大切な『基本的自尊感情』を高める関わりを学び、子どもたちへのまなざしが広がり、養護教諭としての信念を見出した。
H27	山口県立大学	養護教諭	跡部 ゆかり	山口市立平川中学校	「心の叫び」にこたえるための保健室の役割～生徒の支援に必要な保健室の条件(相談機能に視点を当てて)～ 生徒の問題行動を心の叫びとしてとらえ、それにこたえるために必要な保健室の役割と養護教諭の備えるべき力について研修を進めた。誰もが安心して利用できる保健室にするために、事例の振り返りと生徒の保健室に対する思いをまとめ、保健室ルールの在り方について検討した。
H28	山口県立大学	養護教諭	山本 順子	周南市立今宿小学校	安心・安全な学校を目指して～養護教諭の視点を生かした危機管理について～ 「学校の安心・安全」について自分の実践を振り返り、組織として効果的な危機管理体制を確立するために、養護教諭の視点を生かした学校の危機管理について学び、教職員の危機管理意識の向上にむけて保健分野における危機管理研修計画を見直した。
H28	山口県立大学	養護教諭	藤元 雅美	防府市立西浦小学校	「朝食」に焦点をあてた健康教育の展開～組織を巻き込み、発信するために～ 望ましい生活習慣の形成に深く関わっている「朝食」に焦点をあて、子どもたちの実態把握を通して見えてきた課題をもとに、養護教諭として「個」から「集団」へどのように働きかけ、組織の中で保健活動の渦を作り上げていくか、そのプロセスについて検討した。
H29	山口県立大学	養護教諭	太田 好子	周南市立久米小学校	養護教諭の専門性を生かした危機管理マネジメント～食物アレルギーの対応～ 養護教諭の専門性を生かした危機管理の視点から養護教諭の役割を明確にした。そして、食物アレルギー事例やシミュレーション研修実践を振り返り、食物アレルギー対応の危機管理について検討し、今後の実践に向けた研修資料や保健指導資料等を作成した。
H29	山口県立大学	養護教諭	山田 永代	宇部市立西岐波中学校	自己肯定感を育むための養護教諭の関わり～専門性を生かした健康相談のあり 養護教諭が行う健康相談について、講義や事例の振り返りを通して学ぶとともに、心の健康問題や子ども理解に関する専門的な知識を深めた。また、自己肯定感を育むことをめざした保健室経営計画を作成するとともに、教職員対象の健康相談研修を計画した。

8 教育相談等長期研修

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校 (H30年度)			研究テーマ及び実績
H27	山口大学教育学部	養護教諭	有田 陽子	光市立岩田小学校	組織の中で有効に機能する養護教諭の教育相談の在り方 教育相談の必要性がますます高まり、社会や保護者の変化によって学校も組織でなければ対応できない時代になっている。そこでこれまでの実践の中から、1)養護教諭の立場を生かした子供との関係づくりや教育相談活動、2)保健室の特性を生かした担任や他の教職員へのサポートについてまとめ、学校教育相談活動における養護教諭の役割を考察した。
H27	山口大学教育学部	教諭	藤本 美佳	下関市立東部中学校	今日的な課題に対応する教育相談の在り方について 家庭や地域の変化、インターネットに関わる諸問題、発達障害など、今日的な課題に対応するための教育相談の在り方について研修を行った。これらの課題に対応する方策として、教育相談に活かせるカウンセリングの理論や技法(解決志向カウンセリング、心理教育)、チーム援助の在り方について、講義や研修会、学会等を通して考察し、まとめた。
H27	山口大学教育学部	教諭	中村 千賀子	周南市立桜田中学校	学校における教育相談活動と効果的な支援の手立てについて 教育相談活動の効果的な手立てとして、集団を中心に学級づくりや学校適応力を生かした学校での取組を研究した。また、現代社会が生徒に与える影響を学び、動機づけや開発的なカウンセリングの手法について研修した。これからの相談活動として、コミュニティスクールとの連携を意識した地域臨床のはたらしについても外部研修会や文献を中心にまとめた。
H27	山口大学教育学部	教諭	有光 靖恵	山口県立下関商業高等学校	私の小さな授業改革～生徒の不安感と向き合う～ コミュニケーション能力の育成が求められる中、アクティブラーニングや協同学習が積極的に活用されている。しかし、他者との関わりが苦手な生徒や他者視線を気にする生徒にとっては、そのような授業は大変苦痛である。生徒の抱えるさまざまな不安感と授業そのものを分析し、協同学習やMLA理論を研究する中でその不安感と向き合うヒントや解決策を模索した。
H27	山口県立大学看護栄養学部	研究指導主事	田中 和代	やまぐち総合教育支援センター	不登校生徒とその保護者の困り感に寄り添った支援のあり方について 県内で稼働するSCを対象とした教員との連携に関するアンケート調査を実施し、その結果から、SCとの連携方法や教育相談担当者の役割について考察した。また、学校訪問を実施し、教育相談担当者の活動内容や校内体制について調査し、文献や先行研究を参考に校内の教育相談体制についても考察した。
H27	山口県立大学社会福祉学部	教諭	柳瀬 さおり	山口県立岩国商業高等学校	効果的に生徒を支援するための学校教育相談の在り方について 高校での教育相談の実際の場面で生じやすい不登校・いじめ・発達障害への対応について、講義を聴講し文献研究を行った。学校教育相談の組織的なあり方や、相談場面におけるカウンセリングについて、講義・文献を中心にまとめた。また、高校での不登校支援の形の一つである「別室登校」について、電話での聞き取りや学校訪問を通して、その実態と困難さ・可能性について考察した。
H27	山口県立大学社会福祉学部	教諭	高橋 裕子	下関市立養治小学校	「学校内外の連携を円滑にする教育相談の役割」 ～教員間の相談・連携についての実態調査をもとに～ 教員の困り感や相談のしやすさ・ストレスコーピング等についての調査をもとに分析・考察し、現任教員における教育相談担当としてのコンサルテーションや若者世代教員のピア勉強会での実践を通して、教育相談担当としての役割についての課題と提案をした。また、心理学や脳科学・特別支援教育・教育相談全般についての知識・情報収集並びに関係機関等の視察から連携の在り方についても研修した。
H27	山口県立大学看護栄養学部	教諭	田中 純子	山口市立小郡中学校	不登校の理解と対応～「つながること」と「つなげること」～ まずは「不登校をいかに理解するか」ということを通じて、不登校生徒と「つながること」について考えた。次に、不登校の対応として、「他者」や「集団」「学校」「社会」にどうつなげていくか、「学校」としてできることは何かについて具体的に考え、不登校の子どもたちがステップを踏むための、かかわり方や支援の在り方についてまとめた。
H28	山口大学教育学部	教諭	橋本 篤恭	山口県立山口南総合支援学校	発達障害のある生徒の理解と支援のために 発達障害のある生徒の理解と支援のあり方を考えるために、まず発達障害とはどのような障害なのかを確認し、発達障害を取り巻く環境および医療について研究した。また、特別支援教育の「これまで」と「これから」について文献調査した。さらに、教育相談を充実させる背景として、教員間や関係者の連携が大切であると考え、インタビュー調査を行った。
H28	山口大学教育学部	教諭	中根 弘信	山口県立光高等学校	現代の若者像から見た不登校 ～愛着の視点から見た生徒理解と支援のための一考察～ 高等学校における不登校について、現状や傾向を整理するとともに、現代社会を6つの角度から切り取って現代の若者像に迫った。この結果を踏まえ、生徒理解と支援のために留意すべきことをまとめた。さらに、不登校を引き起こす原因の1つとして着目されている「愛着」に焦点をあて、アンケート調査などを通して分析し、不登校の未然防止につなげられるかどうかを考察した。
H28	山口大学教育学部	養護教諭	日比 真由美	山口市立大殿小学校	養護教諭として、効果的な教育相談活動を考える 講義や文献を通して、発達障害に対する理解を深め、最新の支援(TEACCHや応用行動分析、ビジョントレーニング等)についてまとめた。主に、学習障害について、「見え方の違い」や視覚認知機能の弱さから学習に困難さを感じている子どもたちの支援について考察し、脳の発達において感受性期のある機能については、早期発見と早期の適切な療育の必要性を再認識した。また、養護教諭として、発達障害や不登校の子どもたちへの関わり方や支援について環境調整という側面から考察した。

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校(H30年度)			研究テーマ及び実績
H28	山口県立大学看護栄養学部	教諭	前田 達子	光市立周防小学校	<p>かかわりの質を高めるための教育相談からのアプローチ</p> <p>児童や保護者、同僚とのかかわりの質を高め、適切なサポートを行うために、教育相談やカウンセリングの理論や技法、教育相談担当教員としての役割、教師のメンタルヘルスの悪化の現状とメンタルヘルスクエアなどについて、講義や文献、学会を通して学んだことをまとめた。また、児童の悩みやその解決方法、教育相談システムの活用状況について、所属校(平成28年度)の児童にアンケート調査を実施し、その分析結果をもとに、相談相手としての教師のかかわり方、教育相談体制、児童の望ましい人間関係育成の3つの面から、今後の方針や改善策を提案した。</p>
H28	山口県立大学看護栄養学部	教諭	中岡 結里恵	岩国市立玖珂小学校	<p>子どもたちの心の声に耳を傾ける ～学級担任として理解しておきたいこと～</p> <p>学級の中で「不適応」「問題行動」とみなされる行動をとることで助けを求めている子どもたちがいる。その心の声に、教師としてどのように向き合い、応えていけばよいのか考察した。現場の教師が、混乱し迷っていると思われることを中心に、「教育相談」「いじめ」「不登校」「発達障害」について取り上げた。</p>
H28	山口県立大学社会福祉学部	教諭	井町 裕樹	宇部市立西岐波中学校	<p>生徒理解をもとにした生徒指導の在り方について ～二次的な障害・問題行動の未然防止の視点から～</p> <p>生徒の特性に合わない指導や問題行動への対応にとどまる問題解決の生徒指導が、さらなる問題行動を引き起こすことがある。また、保護者と適切な連携がとれず、保護者対応に苦慮する場合もある。そこで、心理学的な視点から生徒の特性理解を図るとともに、それに応じた対応の在り方について研修を行った。また、予防的・開発的生徒指導の在り方について、問題行動の未然防止や保護者連携の視点を重視した研修を行った。</p>
H29	山口大学教育学部	教諭	藤井 あかね	防府市立勝間小学校	<p>予防・開発的な生徒指導をベースにした人間関係づくり</p> <p>不登校やいじめといった問題行動を減らしていくには、対処療法的な指導では根本的な解決にはならない。そこで、予防・開発的な生徒指導を基本とした人間関係づくりについて研究し、児童同士でお互いを高め合っていくような学級づくりについて深めていった。SSTやアサーショントレーニングを授業や学校現場で取り入れていくことができるように、授業案を提案した。</p>
H29	山口大学教育学部	教諭	川崎 嘉子	山陽小野田市立小野田中学校	<p>だれもがしあわせな学校は…</p> <p>近頃の子どもたちを取り巻く環境はとてつもないものになっている。子どもたちが起こしてしまった問題、子どもたちが犠牲になっている出来事など様々である。そのような状況の中、「みんながしあわせな学校」になるように取り組んでいきたいと思っているが、なかなか上手くいかない。未来の日本を担う子ども達を育てていくことは、社会の責務であるという考えのもと、地域の子どものためにと取り組まれている方々が多くおられる。そこで学校だけでなく、社会全体で協力して、すべての子ども達を受け入れ、育てていく手立てを様々な角度から考察した。</p>
H29	山口大学教育学部	教諭	財満 千里	山口県立豊浦高等学校	<p>生徒の特性に応じた教育相談の在り方について～傾聴の姿勢～</p> <p>講義や文献を通して「心理的障害」に対する基礎的な知識を習得しつつ、その分野の専門機関を訪問した。その際対人援助職の基本姿勢が「傾聴」であることを改めて知り、「傾聴」について専門的に学んだ。そして「傾聴の姿勢」を現場に取り入れることを目指した。</p>
H29	山口県立大学社会福祉学部	教諭	長田 宏治	周南市立菊川小学校	<p>思いを出し合い、育みあう教育相談 ～「子どものために」あいうえお～</p> <p>支援が必要な児童の保護者との対話や大学での講義を通して、児童や保護者の裏にある思いを踏まえながら相談活動を行う必要があるということ学んだ。そこから児童や保護者とのかかわり方や各機関との連携についてのポイントをキーワードでまとめた。</p>
H29	山口県立大学看護栄養学部	教諭	羽倉 直子	山口市立陶小学校	<p>気になる子への理解とよりよい支援の在り方 ～学校と家庭を信頼でつなぐ教育相談～</p> <p>講義や文献を通して、発達障害や不登校、家庭の問題がある子などの「気になる子」への理解を深め、個への適切な関わり方やその子を支える集団の在り方について検討した。また、子どもの発達に大きな影響を与える家庭環境や親の養育について考え、家庭との連携を重視した教育相談の研修を行った。</p>

9 日本人若手英語教員米国派遣事業

派遣年度	派遣先	職・氏名・所属校(H30年度)			研究テーマ及び実績
H26(参考)	デラウェア大学	充て指導主事	大川 健志	周防大島町教育委員会	<p>「使える英語」を育成するための言語活動の工夫</p> <p>ESL(English as a Second Language)環境で学習する生徒が、「使える英語」を習得するための授業の在り方について研究を行った。特に、実践的な力を育成するために、4技能を統合的に扱う言語活動を取り入れた授業プランを考案した。</p>

10 長期派遣研修一覧

■ 本県教育の充実を図るためには、専門分野等の高度な知識・技能を有し、県や各地域での中核となる人材を育成する必要があることから、大学院や民間企業等へ教員を派遣しています。
 以下は、県教育委員会が実施してる長期派遣研修の一覧表です。

研修名	研修の目的	期間	研修先等	派遣条件	担当課等
教職大学院	○教員の職務等に関する高度専門的な知識・技能の修得	2年	・兵庫教育大学大学院 ・山口大学大学院	○概ね47歳以下の教頭又は教諭等 ○概ね45歳以下の教諭等	【義務教育課】 【教職員課】
博物館長期体験研修	○新たな視点から学校教育をとらえ直し、その視野の拡大を図るとともに、教育上の課題に適切に対応できるための資質能力の向上	1年	・山口県立博物館	○博物館を活用した学習指導に取り組む者	【社会教育・文化財課】
幼児教育長期研修	○幼保・小一貫指導の推進	1年	・幼稚園 ・幼保連携型認定こども園	○10年以上の経験の小学校教諭	【義務教育課】
自然体験活動等長期研修	○専門的な指導力の向上	1年	・十種ヶ峰青少年自然の家	○概ね45歳以下の教諭	【社会教育・文化財課】
やまぐち総合教育支援センター長期研修	○教員としての資質と見識を高め、本県教育の充実・発展に寄与	1年	・やまぐち総合教育支援センター	○概ね45歳以下の教諭等	【やまぐち総合教育支援センター】
特別支援教育長期研修教員派遣	○障害のある児童生徒の教育に関する専門知識・技能を高め、地域や学校において特別支援教育推進の中心的役割を担う人材を育成	1年 6月 2月	・山口大学 (山口大学教育学部附属特別支援学校実地研修 希望選択) ・国立特別支援教育総合研究所	○概ね45歳以下	【特別支援教育推進室】
山口県保健体育関係教員長期派遣	○本県学校保健の充実発展	6月	・山口県立大学	○概ね45歳以下の養護教諭	【学校安全・体育課】
教育相談等長期研修	○教育相談に関する専門的な知識・技能の修得	6月	・山口大学 ・山口県立大学	○概ね45歳以下の教諭	【学校安全・体育課】
日本人若手教員米国派遣事業	○教員の米国理解 ○日本国内での若年層の米国理解の促進	3週間	・アメリカ合衆国内の大学	○原則40歳以下の者 ○英語力(指定レベル以上)を有している者	【義務教育課】
長期社会体験研修	○社会人としての視野を広げるとともに、教育課題に対応できる能力及び管理職としてのマネジメント能力の向上	1年	・民間企業	○教頭及び教頭候補者名簿に記載された教員	【義務教育課】 【教職員課】
在外教育施設派遣	○当該在外教育施設の教育水準の維持向上及び教員自身の資質能力及び指導力の向上	2年	・派遣される国	○概ね49歳以下の教諭(教職経験12年以上の者) ○管理職派遣(校長54歳、教頭51歳以下)	【教職員課】